

2017 年度

第 2 回 保育講演会

テーマ 絵本の気持ち

～今、すべての人に考えてほしいこと～

講師 絵本作家 なかえよしを先生

去る 11 月 10 日(金) 第 2 回 講演会が開催されました。

『ねずみくんのチョッキ』が発売されたのが、1974 年。今や、親、子、孫と三世代にわたって愛され累計 400 万部を超える「ねずみくんの絵本」シリーズの作者、なかえよしを先生・上野紀子先生ご夫妻が来園くださいました。(参加者 66 名)

壇上の大きなスクリーンに映し出された「絵本の気持ちで」という文字とねずみくんのアニメーション。

なかえ先生の「絵本が喋っているという気持ちで聞いてください」

というお言葉で始まった講演会は当然「ねずみくんの絵本」誕生秘話などが紹介されるのかと思いきや、中江先生が最初にご紹介くださったのはフランスの作家サン＝テグジュペリ(1900～1944)の童話『星の王子さま』の一節でした。



「おとなは、だれも、はじめは子どもだった。

(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)」(前書き)

「心で見なくちゃ、かんじんなことは、目に見えないんだよ」(21 節)

「だけど、目では、なんにも見えないよ。心でさがさないとね」(25 節)

次に、なかえ先生と絵本の専門学校でご親交のあった児童文学作家の矢崎節夫氏が、長らく忘れ去られていた金子みすゞさん(1903～1930)の作品群を世に送り出す経緯と、みすゞさんの詩を何編かご紹介くださいました。

「星とたんぽぽ」 金子みすゞ

青いお空のそこふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまでしずんでる、
昼のお星はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

ちってすがれたたんぽぽの
かわらのすきまにだァまって、
春がくるまでかくれてる、
つよいその根はめにみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。



本当に大切なことは目に見えない。けれども見えないからといって無い訳ではない。見えな
いけれども、確かにあるんだよ。このことを子どもたちはまっすぐな心で感じるができる
のに、私たちおとなは知識が増えたぶん幼い頃には誰しもが見えていた「目に見えない大切な
もの」を見失い、想像力を働かせることを忘れてしまっています。だからこそ、目に見えない
ものを見ようとする想像力はおとなにこそ大切であるとおっしゃっていました。

子どもはおとなが考えているよりもずっと豊かな感受性を持っています。子どもにはまだ難
しすぎると思われる絵本でも手を伸ばしてほしい。それがその子の琴線に触れ、絵本の中の言
葉で救われることもあるのです。まだ自分たちでは見つけることができない子どもたちに心の
宝物となるような絵本との出会いの機会を与えてあげることが、そばにいる私たちおとなの大
切な役目だとなかえ先生はおっしゃいます。

「ねずみくんの絵本」シリーズは鉛筆一本で描かれ、文字も全部あわせても100字程度の
シンプルで余白が多い絵本です。これは読者が想像する余地を残しているからだそうです。是
非もう一度シリーズの一冊を手に取り、子どもたちと一緒に想像力を働かせて読んでみてくだ
さい。新たな発見があるかもしれません。なかえ先生のお話は穏やかな口調の中にも強いメッ
セージが込められていて、忘れかけていた大切なことを思い出させてくださいました。

〔参考文献〕

『ねずみくんのチョコッキ』 (ポプラ社 2004年)

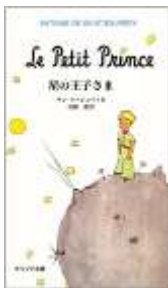


「おかあさんが あんでくれた ぼくの チョッキ。ぴったり にあうでしょ
う」と得意げなねずみくん。ところが、「ちょっときせてよ」とどンドン仲
間がやってきて……

『ねずみくんのチョコッキ』が出版されて、今年で43年。刊行当時は、「し
ゃれているけど、子どもにはむずかしいのでは」という声もありましたが、
子どもたちは、広い画面の中で自由に想像をふくらませ、大好きになって
くれました。この一冊からねずみくんは、累計500万部をかぞえる人気シ
リーズの主人公に。最初の読者は、おとなになってしまったけれど、ねず
みくんはやっぱりねずみくんのまま。小さなからだで、一生懸命がんばる
ねずみくんに、くすつと笑ったり、共感したり、元気や勇気
をもらったり……。

世代をこえて愛される、ずっと かわらないおともだちです。
1975年講談社出版文化賞絵本賞 「よい絵本」選定図書受賞

『星の王子さま オリジナル版』 (岩波書店 2000年)



本来人間には「心の目」が備わっているということ呼び起こされる。その、真実
を見ることのできる「心の目」をもって、大切にしていかなければならないモノを
感じ取り、それを生かしていくことで人は豊かになれるはずなのだが、さまざま
なことに心を奪われ見えなくなっていく、やがて見ようとしなくなる(王子が訪れ
た星に住むおとなたちは点灯夫以外その象徴のようでもある)。キツネの言葉「心
で見なくちゃ、ものごとはよく見えないうてことさ。かんじんなことは、目には見
えないんだよ」は著者からの、おとな、そしてこれからおとなになる子どもたちへ
の警鐘なのかもしれない。

『金子みすゞ ほしとたんぽぽ』 (JULA出版 1985年)



心にしみる金子みすゞの世界を「たいりょう」「わたしとことりとすずと」「こだ
までしょうか」など15編の詩に託して、上野紀子が美しい色彩で、抒情豊かに
描いています。子どもたち、そしておとなたちも楽しめる1冊です。

参加された方より

さくら赤 下向 清

講演会の日、ねずみくんの絵本を楽しみにしていた息子が、幼稚園の後、習い事を終え、すっかり夜になってようやく家に帰り着き、私が読んでやるのを待ちきれずに一冊目を音読し終えて、なかえ先生と上野先生が書いてくださった、ねずみくんが吹き出しで「○○く～ん」と呼んでいるサインをしみじみと眺めて言ったひとことが、「○○くんが絵本の中に入れたら、ねずみくんと一緒に遊べるのにねえ」でした。子どもの放つ言葉は時におとなが想像するどんなフィクションよりもファンタジックで創造性に富み、絶妙に的を射ていることかと舌を巻きます。

講演の中で引用されていましたサン・テグジュペリの「かんじんなことは目に見えないんだよ」という一節はあまりに有名ですが、小さなねずみくんはいつも大きなぞうさんや強そうなライオンさんに一見負けてしまうように見えて、最後にはねずみくんの優しさやねみちちゃんの賢さが一枚上手を取ってめでたしめでたしになります（ねみちゃん最強説、と友人が言っていました）。やさしさも賢さも目に見えない、でもとても大切なもの。

そして金子みすゞの「みんな違ってみんないい」も、近年の金子みすゞブームでよく耳にしますが、同じ精神がねずみくんとその仲間たちの姿を借りて現れると、説教臭さや流行りに流されているような気恥ずかしさが消えて、不思議と素直に新鮮に受け止められます。

私自身がちょうど息子との接し方、社会との関わらせ方に悩んでいたところでしたので、今回の講演を拝聴して「ああ、息子はみんなと違っていいんだ。表に現れなくても、いいところをたくさん持っている。それを認めてやればそれでいいんだ」と、今更ながら初心に還る思いでした。そして同時に、自分自身も違っていいのかも（本当は良くないかもしれませんが）荷物を下ろしたような感覚をおぼえました。成長につれて子が関わる社会も広がりますが、その社会の枠から子がはみ出した時、その原因は子の個性かもしれないし、もしかしたら親である自分に要因があるのかもしれない。もしそうだったとしたら子に申し訳ないし、自分に対しても腹立たしい。子の社会の中での立ち位置を測り、自分の親としての能力を測り、どうにか「皆と同じ」にしなければ、と焦る。しかしそういった尺度は実は子どもの世界には不要なことなのだ、あらためて感じました。しかし、なかえ先生は最後に「あのドアの向こうに広がる目に見える世界で、目に見えないものを感じることはとても難しい」と仰いました。他人と比べても意味がないと頭では分かっている、実際はすべての事象について隣と比べ、全体のどこに位置するかを計算する癖が、我々おとなにはついてしまっています。行きつ戻りつ、そこから開放されることは恐らくないのでしょう。

そんな中で、子どもの、誰とも比べられない独創性を放つ言葉や絵だけが、「見えないもの」を感じ取れる欠片なのかもしれない。

絵本の中でねずみくんと遊びたいな。

そんなふうに見えるのは年少の今だけで、来年はもうそんなことは思い出もしないのかもしれない。現実とファンタジーの境目が分かれる前の、豊かな「今」の時間を、一日一日、息子と一緒に感じていきたいと思います。

また、息子をねずみくんの本の中に呼び込んでくださったなかえ先生、上野先生に、心より感謝申し上げます。

さくら白 菅野 美嘉

講演会の時に、なかえよしを先生が見えない世界を見逃さずに。とおっしゃったのがとても印象に残りました。

世の中には、形には見えないものがたくさんあります。

けれど、私を含めおとなの世界では目に見える情報を求めて重視してしまい、心の目で見えない時が多いと反省しました。

子どもの心に寄り添える絵本を親子で一緒に読んで、子どもたちの想像力を育て、心で見ることのできる人間に成長していくと良いと思いました。まずは、こころの言葉を率先して言ってみようと思います。

さくら赤・つくし赤 横山 礼

「ねずみくんのきもち」なぜこのテーマなのか、単純に絵本の中のねずみくんのきもちのお話なのかなと思ひながら、なかえ先生の講演会を楽しみにしておりました。

ねずみくんのきもちは子どもたちのきもち。親、まわりのおとなたちの視点とは違う子どもたちのものにとらえかた。子どもには見やすいからと描いた絵もどちらかというとおとなの視点であったのかもしれない。

先生のお話を聞いて、そうだなあ、忘れてしまっているなあ、私の視点もいつのまにかおとなになりそれを子どもに押し付けているなあとなんだか反省にも近い感情にもなりました。

見やすい絵の桃太郎の絵は可愛いから、子どもにはわかりやすいだろう。たしかにそうなのかもしれませんが、でもリアルな桃太郎にいいお子さんの姿を見てリアルなものやリアルな視点からの子どもの想像力は本当に面白いし、すごいなあ幼稚園生活や、家庭でもよく見て感心させられます。その素晴らしい力と成長を見過ごさないようにしていきたいと思ひます。

私は元々、金子みすゞさんの詩が大好きで

どうしてこんな風を感じられてそれを言葉にできたのか。そればかり思ひていましたがそれは見ようとする、自然に見る、人の良いところを見る、それを認める、そして自分の良いところも探してみる。なかなか今の私には難しいけれどやってみようと思ひました。「形の見えないものの気持ちやこころを理解する。」なんだか永遠のテーマになりそうです。

このような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。

つくし赤 岩瀬菜穂美

見えぬけれどあるんだよ。見えぬものでもあるんだよ。

金子みすゞの詩を、金子みすゞの事を丁寧に話してお話し下さるなかえ先生。先生は一貫して「見えない世界を大切に」と繰り返し仰っていました。

結果ばかりではなく、子どもが何を思ひてした行動なのか、それを想像してみる。おとなには当たり前前に思える事も、子どもには不思議の連続。子どもの世界や絵本の余白を、心で感じ、想像する。少しスピードを落としてゆっくりゆったり子供と向き合いたいと思ひました。

あやめ赤 植竹 愛

「見えるもので判断するおとなたち」という言葉に自分がとてもあてはまっけて反省しました。なかえ先生の講演会は2回目なのですが、前回は反省したことを覚えています。肝心なものが見えていないというのは、残念なことです。子どもたちのこころの声に耳を傾けていきたいと思ひました。また、子どもたちを見習って見えない世界を見逃さないようにしていきたいと思ひます。

金子みすゞさんの本は前に自分用として購入していました。当時、幼稚園児だったわが子にはまだ難しいかも、と思ひていたのですが、家族と一緒に読んでみようと思ひます。

いろいろなことに気付かされる講演会をありがとうございました。

あやめ白 林 晶子

私は若い頃、絵本作家に憧れた。子供の本なのに作家の短い言葉に深い意味が込められ、絵だけみても想像が広がる、こんな素敵なものを作る人になりたいと思ひた。だから絵本作家さんにお会いできるこの機会はとても楽しみだった。どんな方なのか、一風変わった芸術家風なのか。登場された先生はとても親しみやすい感じで安心した。お話は短い時間だったのに、さすが絵本作家さんだけあってとても分かり易かった。しかしやはり奥が深い。先生のお話の「大事な事は目にみえない」、私にとってそれが何か、わかったようでわからなかった。講演会後から自問自答している。だが、はっきりわからないところに趣きがあり、考へているひとときが私は結構好きだ。大切なことを振り返らせてくれる詩や絵本のすごさを改めて感じた。また心に響く絵本を娘とともに探してみたくなりました。

あやめ白 綾部 由紀子

絵本を通して想像していた通りの先生のお人柄に感激致しました。
絵本をはじめ、さまざまな素晴らしい物と、子どもを出会わせてあげる、出会う環境をつくってあげる、という事が親である私のとても大切な役割だと思いました。
そして、目に見えないものも見逃さずに...そのような感性をもって、日々を豊かに過ごしていければと思います。

あやめ白 石橋 栄

ねずみくんシリーズの絵本は、絵の可愛らしさから眼にとまり、子どもへというより私が気に入って最初に手にとったのを覚えています。
本日、なかえ先生のお話を聞いて色々な言葉がとても心に残りました。
自分も子どもの頃はこんな考え方、あんな考え方、想像力にあふれていたはずなのに、いつしかおとなになり、凝り固まった考え方で子どもに接しているのではないかと改めて考えさせられました。「本当に大切なものは目には見えない」
時代がどんなに変わっても本当に大切なものは変わらないという事を子どもに教えていける親でありたいと心から思います。

あやめ白 高尾瑞絵

「大切なものは目に見えない」・・・
先生のお話を伺って 改めてこの言葉を自分自身に深く刻み込みました。
目先のことばかりに気を取られている自分を反省し、心の目を大きく見開いて、日々を大切に過ごしていきたいと思います。
いつも大切なことを気付かせていただける機会をいただき、ありがとうございます。

つくし白 沼尻 紀子

「子どもたちが大好きな「ねずみくんシリーズ」を書かれたなかえ先生のお話を楽しみにしていました。なかえ先生ご夫妻の温厚なお人柄が心を惹きつける多くの作品を作られることがよく分かりました。温かなお話の中に、ハッとさせられる言葉がいくつもありました。おとなは目に見える情報を知りたがり、その情報でその人が分かると思う。私はいつから見える情報を優先し、見て感じ、心で探すことが少なくなったのでしょうか。いくつかがご紹介頂いた金子みすずさんの詩に出会い、感じた子どもたちの感想がとても印象的でした。その子たちのように、出会う環境を大切に、詩や本を書かれた方の読む子どもたちに向けたメッセージをたくさん感じて受け取って欲しいなと思いました。今回改めて教えて頂いたことを心に刻み、店頭にある本だけでなく、周りの棚から子どもに良い出会いの本を選んであげたいと思います。

あやめ赤 則久 直子

ねずみ君の可愛らしい登場から始まった講演会でした。
なかえ先生の優しい語りで伝えられる絵本の大切さ、おとなが思い込んで物事を見てしまうこと、はっと思いながら聞いておりました。つい日々の忙しさに流され、絵本を読む時に早い口調になってしまっていること、子供との会話に正面から向き合うこと、改めないと思う発見が、いくつもありました。生活の中に反映できるよう努めたく思います。
このような恵まれた機会に感謝いたします。ありがとうございました。

つくし白 村上 美夏

『本当に大切なことは目には見えない』とても心に響くお話でした。見えていることだけで判断をし、考えることをせず、想像力を働かせることをしないおとな。まさにその通りだと普段の自分の言動を振り返り反省をする、貴重な時間を過ごせました。子どもが持っている感性を大事に育み、私自身も心で感じ、心で見ることのできる人でありたいと思います。

もみじ 伴 慶子

なかえ先生上野先生の絵本の世界には、こころの目で見る余白がたくさんあり、美しさやさしさがそこに溢れる素晴らしいものです。
大切なものは目には見えないことを表現する作家先生のお話を、親として子育てする中でうかがえるのは貴重なことだと思います。
特に印象に残ったのは、こどもはおとなの関心事に敏感だというお話です。見えない世界を見逃さないように、時にはこどもに道を示してあげられるおとなになっているかと改めて考えました。また、こどもの目で感じるができるおとなでありたいと思いました。

つくし赤 松永のり子

こどものころから なじみのあった『ねずみくんのチョッキ』。
家の本棚にあり、いつもそばにいてくれる…私にとってはとても親しみ深い本のひとつでした。
今回 このような機会をつくって下さり、参加できました事に感謝申し上げます。
いくつかの本や人物の言葉を交えてのお話でしたが、なかえ先生の「見えない世界を見逃さずに…という感性を大切に」、「そういった本に出会わせてあげるのが、側にいるおとなの仕事」、「本とも“出会い”があるという事」そして最後に「みんなが見ているものを選ばない子に育て欲しいな」とのお言葉にハッと、先生のおっしゃる“まあ 世の中そんなもの”と考えてしまうおとなのひとりだったかもしれないと反省しきりでした。
また、終始、なかえ先生の穏やかなお声と軽やかなお話しぶりに笑顔になってしまっていました。ねずみくんのあの あたたかさ、安心感、なつかしさ、親しみの気持ちはなかえ先生 そのものかもしれないとも感じた 満ち満ちた時間を過ごさせていただき、なかえ先生、野毛山幼稚園のみなさま方に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。
もう一度、星の王子様を深く読み直してみようと思います。

人より少し遅れているのでしょうか、確か私は小学校四年生頃…から「ねずみくん」のファンでした。三歳年下の弟が「面白い本がある」と言って何度も図書室で借りて来てくれました。チョッキがきつい時の動物達の顔や、びっくり顔のねずみくんを見ながら、読み慣れて展開を覚えてからも二人で爆笑したのを思い出します。
漫画のコマを読む順番がわからない弟とでも一緒に笑うことができた貴重な思い出の本でした。そして余談ですが、二十歳を過ぎまだ子供のいない頃に友達からプレゼントされた本が何故かねずみくんの三冊セットでした。
小さな小さなねずみくん。今回の講演会でお話を聞いて、なぜ私の心の中でねずみくんが小さな生き物だと記憶していたのかが急に繋がりました。
ねずみくんの周りに広がる白い背景。なるほど、それでねずみくんは小さかったのです。「目には見えないものの大切さ」というのも心に響きました。
神様のお話を聞く幼稚園に入った息子が「神様は見たことがない、どこにいるのか」と何度も聞いてきます。それ以来、目には見えないけれど大切なものを集めています。
なかえ先生の本とお話で、私の中の「目には見えないもの」コレクションが増え、嬉しく思います。
私や私の子供達の周りに広がる余白には、どんな意味があるのでしょうか…そんな事を考えるのが、講演会の帰り道から楽しくなりました。
ありがとうございました。

さくら赤 松本 亜由美

小さい頃に読んだねずみくんのチョッキ、今回何十年ぶりに読みました。
変わらず、懐かしく感じました。先生のお話の中で金子みすずさんの詩を読んだ小学生の感想を聞き感嘆しました。想像力豊かな子どもたちに、もっと想像したり色々な世界を知ることができるように、導いてあげられるようにしたいです。

『親しみのある「ねずみくん」シリーズの絵本を始め、多くの作品を出されているなかえ先生、上野先生ご夫妻。

実際にお会いして、お二人から醸し出されるゆったりと優しい雰囲気癒されました。

「大切なことは目に見えない」

「こどもは目に見えないものを想像する」

こんな先生の言葉が強く印象に残りました。

おとなになるとどうしても現実主義で利益優先になりがちです。

それらが全て悪いとは言えませんが、みんながそればかりを求めてしまうと、人の心はどうなってしまうのだろう。と不安になります。

幸いにも私は2人のこどもを授かり、子育てをさせて頂いています。反省ばかりの毎日ですが、先生がおっしゃっていた言葉を胸に刻み、こどもに寄り添いながら忘れつつある想像力を一緒に養って行きたいと思いました。

1993年、金子みすゞさんの詩に出会い、1994年、みすゞさんの詩を世に送り出した矢崎節夫先生に本園の講演会にいらしていただきました。何回か矢崎先生にはご講演いただき、その後、矢崎先生からなかえよしを先生を紹介していただきました。

なかえ先生に本園にいらしていただいたのは2006年、2011年と今回で3回目になります。

なかえ先生のお話をうかがい、大切なことは変わっていないことを感じ、本園と同じ想いで、なんだかとても安心しました。

私たちは現象的なことばかりに目がいき、この世の価値観に惑わされがちです。

けれども、私たちは見えるものを見たら、その影にある「見えないもの」「見えない想い」があることを知らなくてはならないと思います。

見えないものの中に、真に大切なことがひそんでいます。

それは神さまの存在にも通じることだと思います。

みすゞさんの詩は、この世に存在するものをすべて同等に見つめ、優しく相手をいとおしむ眼差しです。

矢崎先生が、みすゞさんの想い、優しさを飛ばしましょうとおっしゃったのが思い出されます。

こだまでしょうか

金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと
 「遊ぼう」っていう
 「ばか」っていうと
 「ばか」っていう。
 「もう遊ばない」っていうと
 「遊ばない」っていう。
 そうして、あとで
 さみしくなって、
 「ごめんね」っていうと
 「ごめんね」っていう。
 こだまでしょうか、
 いいえ、だれでも。



心が美しく染まるような、暖かい優しい言葉を伝え、優しさを広げていきましょう。

(奈良亜樹子)

まとめ・文責

広報委員つくし組

阿部 倫子

佐々木嘉子

田中 貴子

納谷 多恵

岩瀬菜穂美